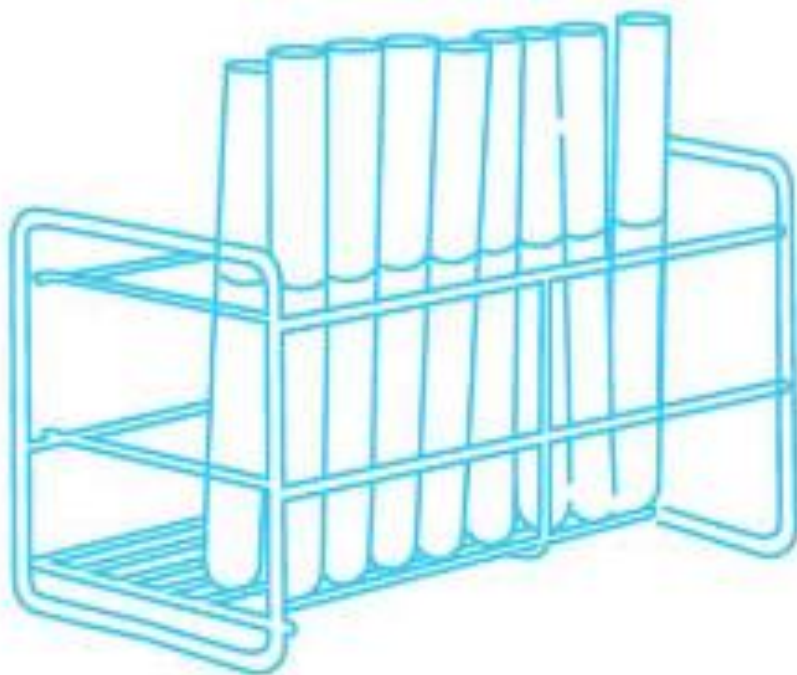


検査案内 2024



呉市医師会臨床検査センター

御 案 内

＊ 当検査センターでは血清学的検査、血液学的検査、生化学的検査及び寄生虫学的検査、微生物学的検査、病理学的検査を実施しております。

＊ 検査項目は、3頁に記載しております。

＊ データ等のお問い合わせは

電話番号 0823(25)7755

郵便番号 737-0056

住 所 呉市朝日町13-3

検査所名 呉市医師会臨床検査センター

＊ 貴院検体受領場所、日時

検体受領場所：

日 時：

＊ 検体ラベル

検体ラベルは貴院名、患者名、採取日、材料、検査項目名等をご記入の上、容器にお貼り下さい。

＊ 検体の提出条件

検体提出量・容器の種類等、適性な検査・測定を行うために必要な事項です。（検査案内の備考または提出量・容器一覧等を参照して下さい。）

① 貴院からの当検査所までの平均搬送時間は、約 時間です。

② 当検査所から検査委託施設までの搬送時間は、およそ 時間です。



1. 呉市医師会臨床検査センター実施項目

A. 生化学検査

TP, ALB, A/G, 総ビリルビン, 直接ビリルビン, 間接ビリルビン, AST(GOT), FIB-4 index, Zn, ALT(GPT), ALP, IFCC, γ -GT, LAP, コリンエステラーゼ, LD, CK, アミラーゼ, 尿素窒素, クレアチニン, 推算 GFR 値, 尿酸, 総コレステロール, 中性脂肪, HDL-C, LDL-C, Na-Cl, K, Ca, P, Mg, Fe, TIBC, UIBC, アンモニア, BNP, トロポニン T 定性, 血糖, HbA1c, 24Cr, 60Cr, シゴキシン, テオフィリン, 推定塩分摂取量, 尿中 (アミラーゼ, 尿素窒素, クレアチニン, 尿酸, Na-Cl, K, Ca, P, Mg)

B. ウイルス学検査

HBs 抗原, HCV 抗体, インフルエンザウイルス抗原, ロタウイルス抗原, A 群 β 溶血性連鎖球菌抗原, アデノウイルス抗原, ノロウイルス抗原, 尿中肺炎球菌莢膜抗原, 尿中レジオネラ抗原, マイコプラズマ抗原, RS ウイルス抗原, CD トキシン

C. 血清学的検査

梅毒 (RPR 法, TPLA 法), フェリチン, CRP (定量), RF, ASO, 寒冷凝集反応, 交差試験, クームス (直接・間接), 血液型 (ABO), 血液型 (Rho (D))

D. 腫瘍関連検査

癌胎児性抗原 (CEA), CA19-9, α -フェトプロテイン (定量), 高感度 PSA, PSA F/T 比

E. 内分泌学検査

甲状腺刺激ホルモン (TSH, IFCC), 遊離トリヨードサイロニン (FT3), 遊離サイロキシン (FT4)

F. 血液学的検査

赤血球数, 白血球数, 血色素量, ヘマトクリット, 血小板数, 血液像, 網赤血球数, プロトロンビン時間, フィブリノゲン, APTT, FDP, D ダイマー, 血沈

G. 尿一般・寄生虫学的検査

(尿)

一般定性 (色調, 混濁, 比重, pH, 糖, 蛋白, ウロビリノーゲン, ビリルビン, ケトン体, 潜血, 亜硝酸試験), 糖定量, 蛋白定量, 沈渣, フィッシュバーグ

(糞便)

虫卵検査 (塗抹法・集卵法), 糞便中ヘモグロビン定性・定量, 糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性

(関節液)

関節液一般 (比重, 蛋白, 顕微鏡的検査)

(髄液)

髄液一般 (比重, 細胞数, ノンネアペルト, パンディ, トリプトファン, 蛋白, 糖, Cl)

(穿刺液: 胸水・腹水・心嚢液)

穿刺液一般 (色調, 混濁, 比重, 蛋白, リバルタ反応, 沈渣)

(精液)

量, 精子濃度, 運動率, 円形状細胞, 正常形態率

H. 微生物学的検査

一般細菌検査, 抗酸菌検査, 真菌検査

I. 病理学的検査・細胞診

上記以外の検査は、当検査センター責任管理の下に、他施設に再委託致します。

委託先: LSI メディエンス・SRL・BML

ご利用の手引き

1. 取引のお申し込み

ご利用に際しましては、当検査センターへご連絡下さい。担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。

2. 検査のご依頼

検査のご依頼に際しましては、所定の検査依頼書、検体容器および検体ラベルをご使用下さい。必要な検査依頼書等は、ご連絡によりお届け致します。

【検査依頼書】

- 患者名・担当医名は、カタカナでご記入下さい。
- 依頼月日・採取月日、採取時刻等もご記入下さい。
- 性別・年齢・入院・外来・材料（検体の種類）欄もご記入下さい。
- ご依頼検査項目は、該当箇所にご指示下さい。
- 依頼書に記載されていない検査項目は、その他の項目・備考欄に明確にご記入下さい。
- 所定欄に身長・体重・妊娠週・尿量等を必要に応じてご記入下さい。なお、蓄尿と指定された検査項目において蓄尿量（尿一日排泄量）が記入されていない場合、検査結果は“重量/day”ではなく、“重量/L”等の濃度表示となります。
- 受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようにお願い致します。
- 検査依頼書は複写式となっていますので、ボールペンで強くお書き下さい。また一部を検査依頼元「控」とし、併せて検体受領明細書に代えさせていただきますのでご了承下さい。

【検体ラベル】

- 検体ラベルは貴院名・患者名・採取日・材料・検査項目名等をご記入の上、容器にお貼り下さい。
- ID付きバーコードラベルは依頼書に貼付されています同一番号のものをご使用下さい。

【検体の採取条件】

- 本案内書をご参照の上、所定の容器に必要量を採取して下さい。容器の種類は検査項目毎に記号で表示してありますので、本案内書の「容器一覧」（25頁）をご参照下さい。
- 本案内書には、およその採取量・提出量を記載してあります。ご提出量は原則として再検査に應じられるよう設定してあります。検体量不足にならないようにご注意下さい。
- 培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出下さい。

【検体の保存条件】

- 検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守して下さい。
- 検体を保存する場合は、冷蔵庫 4℃前後の保存をお願い致します。

【検体の提出条件】

- 検体提出量・容器の種類等、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。本案内書の「提出量」「容器」「備考」の各欄を併せてご参照下さい。

3. 検体の受領・輸送

検査のご依頼に際しましては、当検査センター集配員が受領に伺いますので、検査依頼書と検体とを照合の上、ご提出下さい。

4. 所要日数

検体をお預かりし、成績を先生のお手元にお届けするまでの日数です。依頼検査項目の組合せにより、所要日数の長い項目に準ずることがあります。再検査の場合は、さらに若干の日数を要することがあります。

5. 検査結果のご報告

検査結果は、当検査センター所定の報告書にてお届け致します。至急を要する検査結果は、まず FAX でご報告致します。本案内書で特に指定した緊急項目において異常データを示した場合は、測定後速やかに FAX または個別電話にてご報告致します。報告基準につきましては、本案内書（27,28 頁）をご参照下さい。

6 再検査

- 当検査センター再検査基準に基づき、再検査を致します。
- 最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に應じられないことがあります。

7. 検体の保管

- 検査実施後の検体は、当検査センター規定により一定期間保存させていただきます。
保管日数は、お預かりした検体の種類によっても異なりますが、腐敗、変性の著しい材料は、検査実施後速やかに処分させていただきますので、予めご了承下さい。

8. 検査についてのお問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、当検査センター担当者にお申し付け下さい。

9. 料金のご請求とお支払い方法

- 請求書は1ヶ月分をまとめてお届け致します。お支払い方法は契約にしたがってお願い致します。
- 請求書の検査項目名は当検査センター所定の「検査略称」によって記載されますので、ご了承下さい。

10. 本文の記載内容について

- 本文では、検体採取量・提出量・検査方法・基準値・検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記してあります。次ページの例をご参照の上、正確な検体の採取にご協力下さい。

本文の見方

本文では、検体採取量・提出量、容器、検査方法、基準値、所要日数など、検査をご依頼の際の注意事項を表記しています。下記の例をご参照の上、正確な検体の採取にご協力ください。

【例１】検体が血清である例

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所用日数	備考
検査項目名 総蛋白 (TP) 略称／別称	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ビュレット法	g/dL 6.6～8.1	1～2	

『検体』の提出条件

『検体』の保存条件

当検査センター「汎用容器（分離剤入り）O 1」に、血液2mL採取し、ご提出下さい。

【例２】検体が添加剤入り血液である例

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法
白血球数 (WBC)	EDTA加血液 2	O 4	冷 凍 結 不 可

当検査センター「血液学容器(04)」に、血液2ml採取し、すみやかに転倒混和の上ご提出下さい。

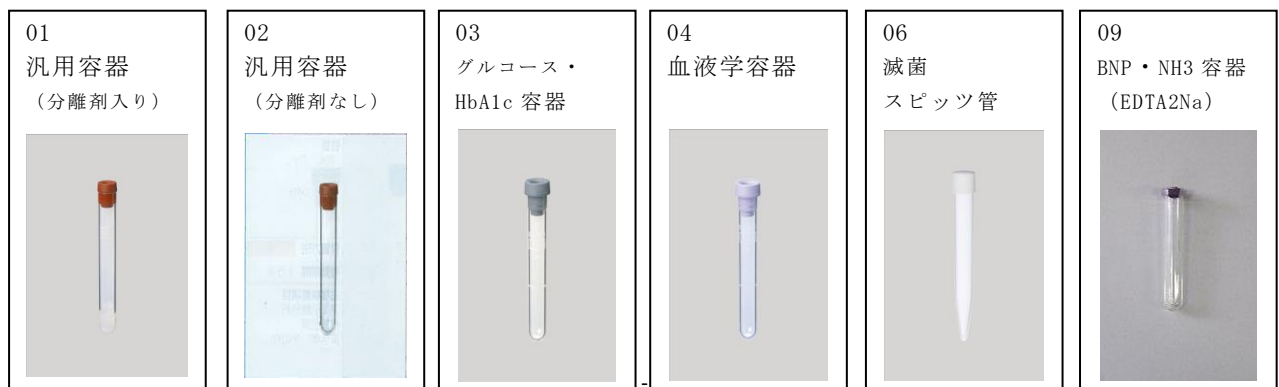
生化学検査

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
総蛋白 (TP)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ビューレット法	g/dL 6.6～8.1	1～2	
アルブミン (Alb)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	改良BCP法	g/dL 4.1～5.1	1～2	
A/G	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ビューレット法 ／改良BCP法	1.32～2.23	1～2	
総ビリルビン (T-BIL)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	酵素法	mg/dL 0.4～1.5	1～2	脚注参照*1
直接ビリルビン (D-BIL)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	酵素法	mg/dL 0.0～0.3	1～2	脚注参照*1
間接ビリルビン (I-BIL)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	酵素法	mg/dL 0.1～0.8	1～2	脚注参照*1
AST (GOT)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	JSCC標準化対応法	U/L 13～30	1～2	溶血血清は高値を示す場合があります。
ALT (GPT)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	JSCC標準化対応法	U/L M 10～42 F 7～23	1～2	溶血血清は高値を示す場合があります。
ALP-IFCC (アルカリフォスファターゼ)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	IFCC標準化対応法	U/L 38～113	1～2	基準値は年齢、妊娠と共に増加傾向が認められます。
γ-GT (γ-グルタミルトランスアミナーゼ)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	JSCC/IFCC 標準化対応法	U/L M 13～64 F 9～32	1～2	
LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	L-ロイシン-p- ニトロアニリド基 質法	U/L 30～70	1～2	
コリンエステラーゼ (Ch-E)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	JSCC標準化対応 法 (p-ヒドキシベン ザイルコリソ法)	U/L M 240～486 F 201～421	1～2	
LD (乳酸脱水素酵素)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	IFCC 標準化対応法	U/L 124～222	1～2	溶血血清は高値を示す場合があります。
CK (CPK)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	JSCC標準化対応法	U/L M 59～248 F 41～153	1～2	
血清アミラーゼ (S-AMY)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	JSCC標準化対応法	U/L 44～132	1～2	尿アミラーゼ 基準値 U/L/37℃ 50～500
FIB-4index (肝線維化スコア)				計算法			AST,ALT,PLT同時 に依頼された場合 に限り御報告しま す。年齢を必ず ご記入下さい。

* 1：直接・間接ビリルビンのご依頼の場合、保険請求は「総ビリルビン」および「直接ビリルビン」と明記して下さい。

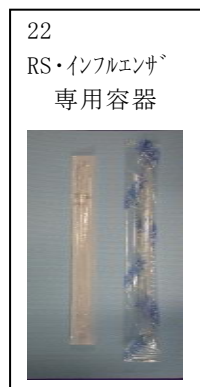
	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
尿素窒素 (UN)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	ウレアーゼ ーアンモニ ア消去UV法	mg/dL 8.0～20.0	1～2	尿中尿素窒素基準 値 7～14g/day
クレアチニン (CRE)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	酵素法	mg/dL M0.65～1.07 F0.46～0.79	1～2	尿中クレアチニン 基準値0.5～1.5g/d a y
推算GFR値				計算法	mL/min/1.73 m ² 90以上	1～2	血清クレアチニンと同時 依頼された場合に 限り、御報告します 性別・年齢を必ず ご記入下さい
尿酸 (UA)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	ウリカーゼPOD 法	mg/dL M3.7～7.8 F2.6～5.5	1～2	
ナトリウム (Na)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	電極法	mEq/L 138～145	1～2	尿中ナトリウム(Na) 基準70～250mEq/d ay
クロール (Cl)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	電極法	mEq/L 101～108	1～2	尿中クロール(Cl) 基準値70～250mEq /day
カリウム (K)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	電極法	mEq/L 3.6～4.8	1～2	尿中カリウム基準 値25～100mEq/day
カルシウム (Ca)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	アルセナゾ Ⅲ法	mg/dL 8.8～10.1	1～2	尿中カルシウム基準 値 0.1～0.3g/day
無機リン (P)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	酵素法	mg/dL 2.7～4.6	1～2	尿中無機リン基準 値0.5～1.0g/day
マグネシウム (Mg)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	酵素法	mg/dL 1.8～2.4	1～2	尿中マグネシウム 基準値0.02～0.13 g/day
血清鉄 (Fe)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	直接比色 法	μg/dL 40～188	1～2	EDTA血漿は検査不可。 「血清鉄」、「TIBC」、 「UIBC」の3項目の検 査間では、いずれか2項 目を測定すれば残りの項 目は計算されることから 同時に3項目の所定点数 を算定することはできま せん。
総鉄結合能 (TIBC)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	直接比色 法	μg/dL M231～385 F251～398	1～2	
不飽和鉄結合能 (UIBC)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	直接比色 法	μg/dL M111～255 F137～325	1～2	
亜鉛 (Zn)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	比色法	μg/dL 80～130	1～2	
総コレステロール (T-Cho)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	酵素法	mg/dL 142～248	1～2	女性では、加齢と 共に増加傾向が認め られます。
中性脂肪 (TG)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	酵素法 (遊離グリセ ロール消去 法)	mg/dL M 40～234 F 30～117	1～2	女性では、加齢と 共に増加傾向が認め られます。
HDL-コレステロール (HDL-Cho)	血液 2 遠心 血清 0.5	○ 1	冷	酵素法 (直接 法)	mg/dL M 38～90	1～2	基準値は年齢によ り若干差がありま す。

	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
					F 48～103		
LDL-コレステロール (LDL-Cho)	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	酵素法 (直接法)	mg/dL 65～163	1～2	
血中NH ₃	血液 2 遠心 EDTA血漿 0.4	O 9	氷冷	酵素法	μg/dL 12～66	1～2	採血後、直ちに 氷冷保存して下さい。
BNP	血液 2 遠心 EDTA血漿 0.4	O 9	冷	CLIA	pg/mL 18.4以下	1～2	
トロポニンT定性	EDTA加血液 0.5	O 4	冷	免疫カマトグラ フィー法	(－)	1～2	
グルコース (GLU)	NaF加血液 2	O 3	冷 凍結不可	酵素法	mg/dL 73～109	1～2	
ヘモグロビンA1c (グリコヘモグロビンA1c) NGSP	NaF加血液 2	O 3	冷 凍結不可	酵素法	% 4.9～6.0	1～2	
60分クレアチニン クリアランス	血液 2 遠心 血清 0.5 および 蓄尿 5	O 1 O 6	冷	酵素法	mL/min 62～108	1～2	血清、尿の両材料 をご提出下さい。 身長・体重・尿量 を依頼書に必ずご 記入下さい。
24時間クレアチニン クリアランス	血液 2 遠心 血清 0.5 および 蓄尿 5	O 1 O 6	冷	酵素法	L/day 88.5～155.4	1～2	血清、尿の両材料 をご提出下さい。 身長・体重・尿量 を依頼書に必ずご 記入下さい。
ジゴキシン	血液 2 遠心 血清 0.5	O 2	冷	CLIA	ng/mL 0.8～2.0	1～2	
テオフィリン	血液 2 遠心 血清 0.5	O 2	冷	CLIA	μg/mL 10.0～20.0	1～2	
グルコース負荷試験	NaF加血液 各 2	O 3	冷	酵素法	正常型mg/dL 空腹時値 73～109 2時間値 140未満	1～2	75gGTTにお ける判定区分と判 定基準（日本糖尿 病学会）



ウイルス学検査

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
HBs抗原定性	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	陰性(ー)	1~2	
HBs抗原定量	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	IU/mL 0.05未満	1~2	
HCV抗体-Ⅲ	血液 1 遠心 血清 0.3	01	冷	CLIA	陰性(ー)	1~2	
インフルエンザ ウイルス抗原	鼻腔ぬぐい 液	22	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
ロタウイルス抗原	糞便	07	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
A群β溶血性 連鎖球菌抗原	咽頭ぬぐい 液	13	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
アデノウイルス抗原	咽頭ぬぐい 液	13	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
ノロウイルス抗原	糞便	07	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
尿中肺炎球菌 莢膜抗原	尿 10	06	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
尿中レジオネラ抗原	尿 10	06	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
マイコプラズマ抗原	咽頭ぬぐい 液	24	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
RSウイルス抗原	鼻腔ぬぐい 液	22	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	
CDトキシン	糞便	07	冷	イムノクロマト法 (簡易法)	(ー)	1	



免疫血清学検査

検査項目		採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
梅毒 定性	RPR法	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ラテックス比濁法	(-)	1~2	
	TPLA法							
梅毒 定量	RPR法					R.U. 0.0~0.9		
	TPLA法					T.U. 0.0~9.9		
寒冷凝集反応		血液 2 遠心 血清 0.4	O 1	常	赤血球凝集反応	64 倍未満	1~2	
CRP	定量	血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ラテックス免疫比濁法	mg/dL 0.00~0.14 以下	1~2	
RF		血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ラテックス免疫比濁法	IU/mL 0~15	1~2	
ASO		血液 2 遠心 血清 0.5	O 1	冷	ラテックス比濁法	IU/mL 200以下	1~2	
直接クームス試験		EDTA加血液7 (2Kまたは2Na)	2 5	常	試験管法	陰性	1~2	
間接クームス試験		EDTA加血液7 (2Kまたは2Na) 遠心 血漿 3	2 5	冷	試験管法	陰性	1~2	
交差試験		EDTA加血液7 (2Kまたは2Na) 遠心 血漿 3	2 5	冷	試験管法		1~2	
ABO式血液型		EDTA加血液2 (2Kまたは2Na)	O 4	常 (凍結不可)	試験管法		1~2	
Rho (D) 因子		EDTA加血液2 (2Kまたは2Na)	O 4	常 (凍結不可)	試験管法		1~2	

内分泌腫瘍関連検査

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
フェリチン	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	ng/mL M 9.0~275 F 4.0~87.0	1~2	女性では、加齢と共に増加傾向が認められます。
α-フェトプロテイン	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	ng/mL 10.0以下	1~2	
癌胎児性抗原 (CEA)	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	ng/mL 5.0以下	1~2	
CA19-9	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	U/mL 37.0以下	1~2	
PSA	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	ng/mL 4.00以下	1~2	
PSA F/T比	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	% 27以上	1~2	
甲状腺刺激ホルモン (TSH_IFCC)	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	μU/mL 0.38~5.38	1~2	
遊離サイロキシン (FT4)	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	ng/dL 0.70~1.48	1~2	
遊離トリヨード サイロニン (FT3)	血液 2 遠心 血清 0.4	01	冷	CLIA	pg/mL 1.88~3.18	1~2	

01
汎用容器
(分離入り)



04
血液学容器



25
交差試験用
容器 7mL (EDTA2Na)



血液学検査

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
白血球数 (WBC)	EDTA加血液 2	○ 4	常	フローサイトメトリー法	$/\mu\text{L}$ 3300～8600	1～2	実施料は「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。
赤血球数 (RBC)	EDTA加血液 2	○ 4	常	電気抵抗検出法	$\times 10^4/\mu\text{L}$ M 435～555 F 386～492	1～2	
ヘモグロビン (Hb)	EDTA加血液 2	○ 4	常	SLS - HGB法	g/dL M 13.7～16.8 F 11.6～14.8	1～2	
ヘマトクリット (Ht)	EDTA加血液 2	○ 4	常	赤血球 H° ル波 高値検出法	% M 40.7～50.1 F 35.1～44.4	1～2	
血小板 (PLT)	EDTA加血液 2	○ 4	常	電気抵抗検出法	$\times 10^4/\mu\text{L}$ 15.8～34.8	1～2	
平均赤血球容積 (MCV)	EDTA加血液 2	○ 4	常	電気抵抗検出法	fL 83.6～98.2	1～2	
平均赤血球血色素量 (MCH)	EDTA加血液 2	○ 4	常	計算法	pg 27.5～33.2	1～2	
平均赤血球血色素濃度 (MCHC)	EDTA加血液 2	○ 4	常	計算法	g/dL 31.7～35.3	1～2	
網状赤血球数 (レチコ)	EDTA加血液 2	○ 4	常	フローサイトメトリー法	‰ 2～19	1～2	

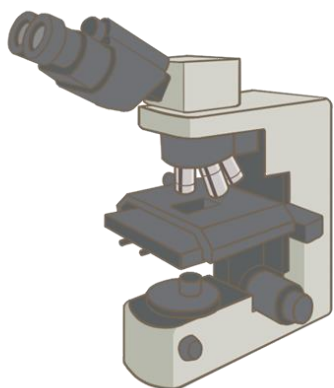
※ EDTA加血液は凍結しないで下さい。



血液学検査

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
白血球像	EDTA加 血液2	○ 4	常	レーザーフローサイトメトリ 法 目視法（鏡検）	% Neut 40.0～74.0 Lymphocyte 19.0～48.0 Mono 3.4～9.0 Eosino 0.0～7.0 Baso 0.0～1.5 LUC 0.0～4.0	1～2	採血後8時間以上 のものは、血球形 態破壊が著しくな るため検査不能に なる事があります できるだけ早くご 提出下さい。 StabとSegはNeut （好中球）として 一括表示されます 。但し目視法（鏡 検）の際は個別に 表示されます。
血沈	血液 1.8	1 1	常	ウェスターグレン法	mm M 2～10 F 3～15 (1時間値)	1	採血後4時間以内 に提出して下さい

※ E D T A 加血液は凍結しないで下さい。



04

血液学容器



11

血沈容器



血液学検査（凝固）

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
プロトロン時間 (PT)	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5	05	常	透過光	% 70 ~ 100 秒 9.9~12.8 PT-INR 0.85~1.15	1~2	採血後4時間以内に提出して下さい
フィブリノーゲン (FIB)	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5	05	常	透過光	mg/dL 180~500	1~2	採血後4時間以内に提出して下さい
活性化部分 トロンボプラスチン時間 (APTT)	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5	05	常	透過光	秒 27.6~34.3	1~2	採血後4時間以内に提出して下さい
FDP	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5	05	常	比濁法	μg/mL 5.0未満	1~2	採血後4時間以内に提出して下さい
Dダイマー	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5	05	常	比濁法	μg/mL 1.00未満	1~2	採血後4時間以内に提出して下さい

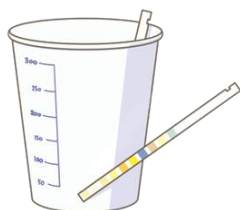
05
血液凝固検査用容器



一般臨床検査（尿）

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
蛋白定性	尿 10	O 6	冷	試験紙法	(－)	1～2	実施料は、当該保険医療機関内で検査を行った場合のみ算定できます。
糖定性				試験紙法	(－)		
ウロビリノーゲン定性				試験紙法	(±)		
ビリルビン定性				試験紙法	(－)		
pH				試験紙法	5.0～7.5		
比重				試験紙法	1.005～1.030		
尿中ケトン体				試験紙法	(－)		
潜血反応				試験紙法	(－)		
亜硝酸試験				試験紙法	(－)		
蛋白定量	蓄尿又は 部分尿 5	O 6	冷	ビ°叻°ーレット°法	随時尿 mg/dL 10以下 1日量 g/day 0.1以下	1～2	脚注参照*1
糖定量	蓄尿又は 部分尿 5	O 6	冷	酵素法	随時尿 mg/dL 20以下 1日量 mg/day 40～85	1～2	脚注参照*1
沈渣	尿 10	O 6	冷	遠沈鏡検(無染色)		1～2	実施料は、当該保険医療機関内で検査を行った場合のみ算定できます。
フィッシュバーグ	尿 各10	O 6	冷	屈折計法	1.025以上	1～2	

*1 蓄尿の場合には、必ず1日蓄尿量を明記して下さい。



一般臨床検査（糞便）

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
虫卵検査塗抹法	糞便 親指頭大	07	冷	直接塗抹法	陰性	1～2	
虫卵検査集卵法	糞便 親指頭大	07	冷	杓マリソール法	陰性	1～2	
便中ヘリクバクシ定性	糞便 (専用容器)	08 または 07	冷	金コロイド比色法	陰性	1～2	脚注参照*2
便中ヘリクバクシ定量	糞便 (専用容器)	08 または 07	冷	金コロイド比色法	ng/mL 100未満	1～2	脚注参照*2
便中ヘモグロビン 及びトランスフェリン 定性	糞便 (専用容器)	07	冷	イムノクロマト法	陰性	1～2	脚注参照*2

*2 専用容器は、予めご依頼下さい。



一般臨床検査（髄液）

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
比重	髄液 0.5	06	冷	屈折計法	1.005～1.007	1～2	実施料は「髄液一般検査」として一連の算定となります。
細胞数	髄液 0.5	06	冷	Fuchs-Rosenthal法	5以下 / μ L	1～2	実施料は「髄液一般検査」として一連の算定となります。
蛋白定量	髄液 1	06	冷	ピロガロール レッド法	mg/dL 15 ～40	1～2	
糖定量	髄液 0.5	06	冷	酵素法	mg/dL 40 ～70	1～2	
クロール定量	髄液 0.5	06	冷	電極法	mEq/L 100～135	1～2	
ノンネアペルト	髄液 0.5	06	冷	肉眼的測定	(－)	1～2	
パンディ	髄液 0.5	06	冷	肉眼的測定	1＋以下	1～2	
トリプトファン	髄液 0.5	06	冷	肉眼的測定	(－)	1～2	

ご注意 / 「髄液検査」を「微生物検査」と併せてご依頼の場合、検体は室温にてご提出下さい（冷蔵不可）



一般臨床検査（穿刺液・精液）

検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存 方法	検査方法	基準値(単位)	所要 日数	備 考
蛋白定量	穿刺液 1	06	冷	ビュレット法	g/dL 浸出液 4.0以上 漏出液 2.5以下	1～2	
比重	穿刺液 1	06	冷	屈折計	浸出液 1.018以上 漏出液 1.015以下	1～2	
リバルタ反応	穿刺液 1	06	冷	蛋白含有法	浸出液 (+) 漏出液 (-)	1～2	
沈渣	穿刺液 1	06	冷	遠沈鏡検		1～2	
量	精液 全量	06	冷	肉眼的測定	mL 2.0 mL以上	1～2	実施料は「精液一般検査」として一連の算定となります。
精子濃度	精液 全量	06	冷	鏡検法	$20 \times 10^6/\text{mL}$ 以上	1～2	実施料は「精液一般検査」として一連の算定となります。
運動率	精液 全量	06	冷	直接塗抹/鏡検	50%以上	1～2	
円形状細胞	精液 全量	06	冷	直接塗抹/鏡検		1～2	
正常形態率	精液 全量	06	冷	目視法（鏡検）	15%以上		

06
滅菌
スピッツ管



微生物学検査のご依頼について

【ご依頼上の注意】

- 1) 材料採取部位ならびに材料名を必ず依頼書に明記して下さい。
- 2) 目的菌名があれば依頼書に明記して下さい。

【検体採取保存に関する一般的注意事項】

- 1) 検体採取は、環境細菌による汚染や常在菌等の混入を極力避けるよう慎重に行って下さい。また、消毒液等の混入も避けて下さい。
- 2) 原則として抗菌剤投与前に採取して下さい。投与後の採取の場合は、48時間以上経過または投薬直前（薬剤血中濃度が最も低い時期）に採取して下さい。
- 3) 検体採取後直ちに指定の検体容器に入れ、保存条件（ほとんどの検体は冷蔵）を厳守して下さい。

【主要材料の採取保存方法】

1) 口腔・気道・呼吸器系材料

- 喀痰 口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2～3回うがいしてから喀出痰を採取します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにして下さい。
- 咽頭液 滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒で病変部をよく擦って粘液を採取します。

2) 消化器系材料

- 糞便 急性期の排出便を採取します。糞便の量は1g程度とし、採便容器に入れて下さい。
- 胆汁 胆管内胆汁（A胆汁）、胆嚢内胆汁（B胆汁）、肝内胆汁（C胆汁）のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁（B胆汁）を培養します。滅菌スピッツ管に2～3mL採取します。

3) 泌尿器・生殖器系材料

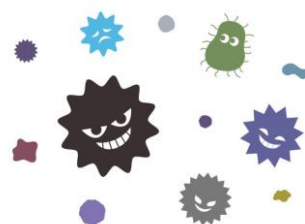
- 尿 患者自身が採尿する場合はほとんどため、採尿に際して適切な指示をして下さい。男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管にいれてもらいます。女性の場合は、膣等の常在菌汚染があるため、充分洗浄してから採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を侵したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは1回毎に取り替えるように指示して下さい。尿は滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨て、中間尿を取ります。
- 生殖器分泌物 男性の場合は、陰茎をしごき、分泌物を採取します。女性の場合は、外陰部を消毒した後、陰鏡を用いて滅菌綿棒で後陰内蓋部より採取します。（淋菌を疑われ、止むを得ない場合は室温）

4) 血液・穿刺液

- 血液 採血に当たり、穿刺部位を十分に消毒して下さい。消毒方法は、70%アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くよう拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。1分後に注射器で採血します。血液培養用ボトルは、予めキャップを取り、ゴム上部を70%アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液接種量は7～10mLです。接種後の培養用ボトルは、孵卵器（35～37℃）で保管（止むを得ない場合は、室温）して下さい。
- 髄液 採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行って下さい。髄液を滅菌スピッツ管に入れ、提出して下さい。

5) その他の部位

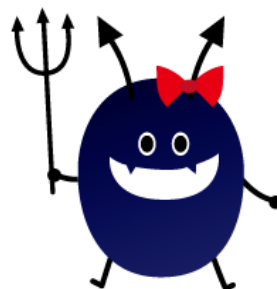
- 膿瘍・創傷 皮下組織や粘膜下の閉鎖性膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツに入れて下さい。嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気性指定容器（ケンキポーター）のゴム栓に刺し、注入します。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清掃後、滅菌綿棒で採取します。



微生物学検査

検 査 項 目		検査材料	容器	保存方法	使用培地・検査方法	所要日数	備 考
一般細菌検査	塗抹	尿・喀痰／その他	別紙	冷	グラム染色	検体到着後 30分	
	鼻汁好酸球	塗抹標本1枚	別紙	常	エオジノステイン染色	検体到着後 30分	
	培養・同定	口腔・気道呼吸器	別紙	冷	使用培地は、目的菌、検査材料により異なりますが、基本的には血液寒天培地、チョコレート寒天培地、BTB培地（便の場合、SS寒天培地）各種確認培地、診断用免疫血清を使用。	3～4	
		消化器		冷			
		泌尿器・生殖器		冷			
		血液・穿刺液		室・冷			
		その他の部位		冷			
	嫌気性培養	膿・分泌物、血液・穿刺液胆汁／その他	別紙	冷	臨床用TGC培地、CDC嫌気性菌用羊血液寒天培地等を使用。	3～11	
	感受性検査	1菌種	別紙		CLSI法	3～4	
		2菌種					
		3菌種以上					
一般細菌検査	塗抹	喀痰／その他	別紙	冷	チール・ネルゼン法	検体到着後 30分	
真菌検査	塗抹	爪・皮膚	別紙	冷	20%KOH法	検体到着後 30分～ 1時間	
	培養・同定	爪・皮膚・毛髪／その他	別紙	冷	ポテトデキストロース寒天培地		

* 容器は「微生物検査容器一覧」（25頁）をご参照下さい。



病理組織・細胞診検査のご依頼について

病理組織・細胞診検査のご依頼に際しては、所定の専用依頼書をご使用いただくとともに、以下の点にご留意下さい。

【検査依頼書】

- 1) 依頼書へは必ずボールペンでご記入下さい。
- 2) 患者名、提出院名は漢字でご記入下さい。
- 3) 生年月日及び年齢を必ずご記入下さい。記入のない場合、診断に支障をきたすこともあります。
- 4) 患者 ID、カルテ No もご記入下さい。
- 5) 提出日、採取日、前回検査番号等もご記入下さい。
- 6) 検査材料の個数は必ずご記入下さい。
- 7) 性別、入院、外来、材料名、臨床診断、検査項目等は該当する箇所をチェックして下さい。
- 8) 臨床経過および所見等は必ず詳細にご記入下さい。とくに婦人科検体の場合、最終月経、月経歴、治療内容等は必ずご記入下さい。記入のない場合、診断に支障をきたすこともあります。

【検体容器・検体ラベル】

- 1) 検体材料に応じた所定の容器にて検体をご提出下さい。
- 2) 検体ラベルに貴院名、患者名を必ずご記入の上、ご提出下さい。
- 3) 複数の臓器・検体をご提出の際は、必ずそれぞれ別個の容器に入れ、検体ラベルに明示して下さい。
塗抹スライドにてご提出の場合、スライドガラスのフロスト部分にご記入下さい。

病理組織検査 実施料の算定について

- 1) 「病理組織標本作製」として1臓器につき860点を算定することができます。
但し、検査に当たって、4臓器以上の検査を行った場合は、3臓器が限度となります。
- 2) 次に掲げるものは、その区分毎に1臓器として算定します。

①気管支および肺臓	⑥上行結腸、横行結腸および下行結腸
②食道	⑦S状結腸
③胃および十二指腸	⑧直腸
④小腸	⑨子宮体部および子宮頸部
⑤盲腸	
- 3) リンパ節については、所属リンパ節毎に1臓器として数えます。
但し、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数えるものとします。
- 4) 検査に当たって、免疫抗体法（酵素抗体法）を用いた検査を行った場合は、400点を算定することができます。
悪性リンパ腫、悪性中皮腫、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎又は水疱症（天疱瘡、類天疱瘡等）が疑われ、確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には1200点を加算できます。

病理組織 材料の提出方法

病理組織をご依頼の際は、検査材料を10%中性緩衝ホルマリン固定組織でご提出下さい。

【10%中性緩衝ホルマリン固定組織】

- 1) 検体は採取後、自家融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定して下さい。
- 2) 検体の固定には充分量の10%中性緩衝ホルマリン液をご使用下さい。
- 3) 内視鏡下生検材料等の微細組織をご提出の際は、濾紙等に貼り付け、10%中性緩衝ホルマリン液にお入れ下さい。
- 4) 内視鏡下生検材料等で複数個の微細組織をご提出の際は、濾紙に番号などを記入し、採取部位毎に別容器にお入れ下さい。
- 5) 手術材料等の大きい組織をご提出の際は、当センターまでご連絡下さい。

細胞診検査 材料の提出方法

(1) 液状検体

胸水・腹水 滅菌スピッツ2～3本（抗凝固剤添加 例：1%ヘパリン）

* ベッド上で2～3回体位を変換させてから穿刺採取して下さい。

尿・髄液など 滅菌スピッツ1本

* 髄液は予めお問い合わせ下さい。

胆汁・脾液など 滅菌スピッツ1本

* 消化酵素による細胞変性が急速に進むため、検体は氷の中に採取管を立てて採取して下さい。

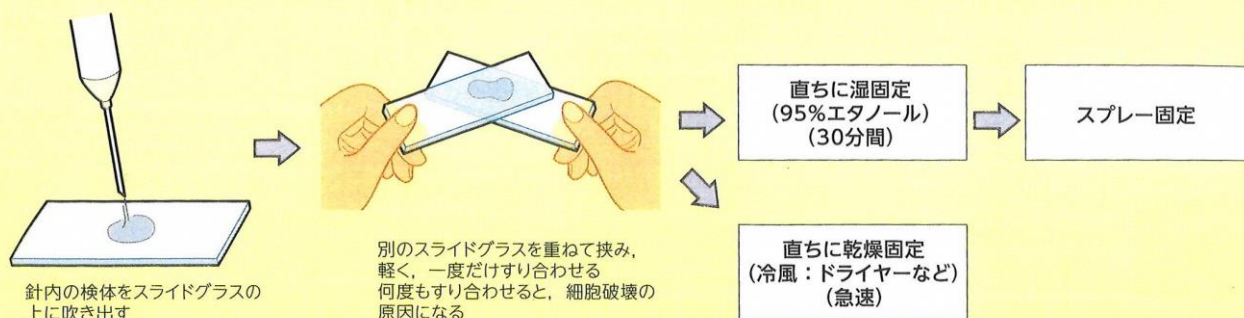
* ご提出の際は事前にご連絡下さい。

(2) 穿刺吸引標本など

必要スライド枚数：湿固定2枚、乾燥固定1枚

(3) 穿刺吸引標本など

必要スライド枚数：湿固定2枚、乾燥固定1枚



* 採取検体は微量であることが多く乾燥しやすいため、標本作製は必ず採取現場で行い、塗抹後、瞬時に固定液に入れてください。

* 吸引量が少ない場合、塗抹後に針・注射筒を生食水にて2～3回洗浄し、その洗浄液を1,500rpm 5分遠心、沈渣を塗抹後、直ちに固定してください。

* のう胞内容液など穿刺吸引物の量が多い場合は、生検体をスピッツに入れて提出ください。

(3) 擦過標本

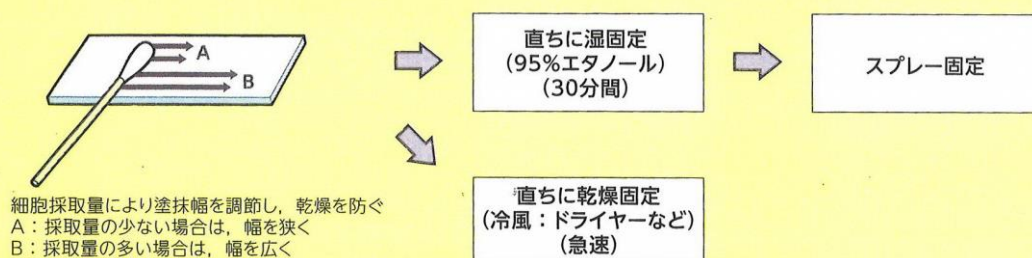
必要スライド枚数：湿固定1枚（婦人科検体）

湿固定1枚、乾燥固定1枚（その他の検体）

(4) 擦過標本

必要スライド枚数：湿固定1枚（婦人科検体）

湿固定2枚、乾燥固定1枚（その他検体）



* 塗抹時の乾燥を防ぐため、標本作製は必ず採取現場で行い、塗抹後、瞬時に固定液に入れてください。

* 婦人科頸部擦過スミアは、綿棒などを立てて塗抹してください。

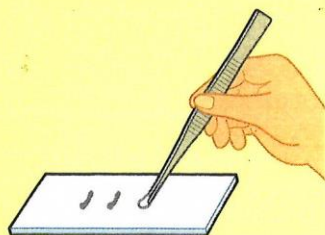
* 婦人科頸管内膜スミアは、綿棒などを寝かせて、回転させながら塗抹してください。

(4) 捺印標本

必要スライド枚数：湿固定1枚、乾燥固定1枚

(5) 捺印標本

必要スライド枚数：湿固定1枚、乾燥固定1枚



組織断面をスライドガラスに
軽く捺印する



直ちに湿固定
(95%エタノール)
(30分間)

スプレー固定

直ちに乾燥固定
(冷風：ドライヤーなど)
(急速)

【固定操作について】

- 1) 湿固定：塗抹後、直ちにスプレー固定剤をかけ、ご提出下さい。（固定液が滴るくらい噴霧）
- 2) 乾燥固定：塗抹後、直ちに冷風（ドライヤー等）で急速に乾燥させて下さい。

LBC 婦人科

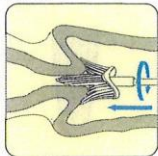
1 LBC検体提出における注意事項

【注意事項】

- 穴の開いたキャップでの提出は避けてください。穴を開けた場合は、コンタミネーション防止のため新しいキャップを使用してください。
- ご提出の際は、バイアルにパラフィルムは巻かず、キャップがしっかりと閉まっていることをご確認ください。
パラフィルムを巻く行為は装置の正常動作を妨げるため、場合によっては検査不能になる恐れがあります。
- 婦人科 LBC は子宮頸がん検査としています。弊社では体部内膜の採取は想定していません。

【細胞採取方法：Cervex ブラシを用いた場合】

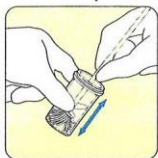
1) 採取



・子宮口に軽く当て**右に5回転**させて細胞を採取します。
注) 強く当てると出血する可能性があります。

2) 細胞回収

ThinPrep (容器番号 81, 83※)。



- ・ **検体採取の際は、できるだけ血液、粘液の混入を避けてください。**
- ・ 検体採取後、ブラシを直ちにバイアルの底に押し付けるように10回濯いでください。最後にブラシを回転させて細胞を浮遊させてください。
- ・ 採取ブラシ先端部分はバイアル内に入れないようにしてください。
- ・ ThinPrepについてはブラシは提出せず廃棄してください。

※：容器番号 83 は婦人科用ではありません。

病理学検査

検査項目			検査材料	容器	保存	検査方法	所要 日数	備 考
病理組織検査	生検		10%中性緩衝ホルマリ 固定組織	17	常	ヘマトキシリン・エオジン染色 病理専門医による鏡検診断	7日～	ただし至急は この限りではない
	標本作製	ブロック作製	10%中性緩衝ホルマリ 固定組織 パラフィンブロック		常	切り出し、包埋	2日～	ただし手術材料は この限りではない
		染色標本作製	パラフィンブロック		常	切り出し、包埋、薄切 染色	2日～	ただし手術材料は この限りではない
	免疫組織学的染色		パラフィンブロック		常	切り出し、包埋、薄切 染色	3日～	ただし手術材料は この限りではない
細胞診検査（婦人科等）	膣および円蓋部 （V）		湿潤固定標本	20	常	パパニコロウ染色	5～8日	
	子宮頸管擦過 （EC）							
	体部内膜（EM）							
液状細胞診検査 LBC	LBC婦人科		子宮頸管擦過	18	常	パパニコロウ染色	5～8日	
細胞診検査 その他	呼吸器検体	喀痰	喀痰（生検体）	12	冷	パパニコロウ染色	3～7日	
		気管支擦過	湿潤固定標本 および 乾燥固定標本	20	常	パパニコロウ染色 PAS染色		
		気管支洗浄液	生検体		冷			
		蓄痰細胞診	YM式専用容器採取 検体	19	常	パパニコロウ染色		
	液状検体	尿	生検体	06	冷	パパニコロウ染色	3～7日	
		穿刺液 （胸水・腹水・心臓液等）	生検体	06	冷	パパニコロウ染色 PAS染色 メイグリュウワルト・ギムザ染色	4～7日	
		採取液 （胆汁・唾液・胃液等）	生検体	06	冷	パパニコロウ染色 メイグリュウワルト・ギムザ染色	4～7日	
		髄液	生検体	06	冷	パパニコロウ染色 メイグリュウワルト・ギムザ染色	4～7日	
	穿刺吸引標本 （乳腺・甲状腺・前立腺等）		湿潤固定標本 および 乾燥固定標本	20	常	パパニコロウ染色 メイグリュウワルト・ギムザ染色	4～7日	

容器一覧

0 1	汎用容器（分離剤入り）
0 2	汎用容器（分離剤無し）
0 3	グルコース・HbA1c 用（NaF 加）容器
0 4	血液学容器
0 5	血液凝固検査用容器
0 6	滅菌スピッツ管
0 7	採便容器
0 8	便中ヘモグロビン採便管
0 9	BNP・NH ₃ 用（EDTA 2 Na）容器
1 1	血沈用（3.2%クエン酸 Na 加血液）容器
1 2	喀痰容器
1 3	ウイルス用容器（カルチャースワブ EZ 赤）
1 4	一般細菌用容器（カルチャースワブプラスブルー）
1 5	一般細菌用容器（カルチャースワブプラスオレンジ）
1 6	カルチャーボトル
1 7	組織提出用容器
1 8	液状細胞診（LBC）用容器（婦人科用）
1 9	YM 式喀痰容器
2 0	スライド
2 1	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン採便管
2 2	RS ウイルス・インフルエンザ用専用容器
2 4	マイコプラズマ抗原用専用容器
2 5	交差試験用（EDTA 2 Na）7 mL

微生物検査容器一覧

○主として用いられる検体

△必要に応じて用いられる検体

		尿	尿道分泌物	膣分泌物	喀痰	咽頭粘液	膿（解放膿）	膿（非開放）	胆汁	髄液	腹水	血液	耳漏	皮膚・爪	糞便	鼻汁好酸球	その他（眼脂等）	鼻腔
6	滅菌スピッツ管	○	○			△	○	○	○	○	○		○	○				
7	採便容器														○			
12	喀痰容器				○	△	○		△		○			○				
13	ウイルス用容器（赤）					○									△			
14	一般細菌用容器（ブルー）		○	○		○	○	○					○	○	○		○	
15	一般細菌用容器（オレンジ）		○	○		○	○	○					○		○		○	
16	カルチャーボトル											○						
20	スライド（塗抹）			○												○		
21	シートチューブ（嫌気用）							○	○	△	△						△	
22	RS ウイルス・インフルエンザ用専用容器																	○
24	マイコプラズマ用専用容器					○												

生化学項目

項目コード	項目名	単位	基準値	緊急連絡(FAX)
1	TP	g/dL	6.6～8.1	
2	ALB	g/dL	4.1～5.1	
7	T-BIL	mg/dL	0.4～1.5	
8	D-BIL	mg/dL	0.0～0.3	
11	AST	U/L	13～30	1000 ↑
12	ALT	U/L	M: 10～42 F: 7～23	1000 ↑
121	ALP_IFCC	U/L	38～113	
14	γ-GT	U/L	M: 13～64 F: 9～32	
15	LAP	U/L	30～70	
16	ChE	U/L	M: 240～486 F: 201～421	
17	LD	U/L	124～222	1000 ↑
18	CK	U/L	M: 59～248 F: 41～153	1000 ↑
19	S-AMY	U/L	44～132	1000 ↑
22	BUN	mg/dL	8.0～20.0	60.0 ↑
23	CRE	mg/dL	M: 0.65～1.07 F: 0.46～0.7	5.00 ↑
24	UA	mg/dL	M: 3.7～7.8 F: 2.6～5.5	
25	T-CHO	mg/dL	142～248	
26	TG	mg/dL	M: 40～234 F: 30～117	
27	HDL-C	mg/dL	M: 38～90 F: 48～103	
28	LDL-C	mg/dL	65～163	
136	NA	mEq/L	138～145	120 ↓ 160 ↑
137	CL	mEq/L	101～108	
33	K	mEq/L	3.6～4.8	2.5 ↓ 6.0 ↑
34	Ca	mg/dL	8.8～10.1	6.0 ↓ 13.0 ↑
35	IP	mg/dL	2.7～4.6	
36	Mg	mg/dL	1.8～2.4	
37	Fe	μg/dL	40～188	
38	TIBC	μg/dL	M: 231～385 F: 251～398	
39	UIBC	μg/dL	M: 111～255 F: 137～325	
125	Zn	μg/dL	80～130	
43	NH3	μg/dL	12～66	400 ↑
60	GLU	mg/dL	73～109	50 ↓ 300 ↑
47	HbA1c	%	4.9～6.0	3.9 ↓ 13.9 ↑
104	CRP	mg/dL	0.00～0.14	
105	RA	IU/mL	0～15	
106	ASO	IU/mL	200 以下	
83	U-AMY	U/L	50～500	
85	U-CRE	mg/dL		

免疫学項目

項目コード	項目名	単位	基準値	緊急連絡 (FA)
801	TSH_IFCC	μ U/mL	0.38～5.38	
804	FT3	pg/mL	1.88～3.18	
805	FT4	ng/mL	0.70～1.48	
810	AFP	ng/mL	10 以下	
807	CEA	ng/mL	5 以下	
808	CA19-9	U/mL	37 以下	
819	テオフィリン	μ g/mL	10.0～20.0	25.0 ↑
820	ジゴキシン	ng/mL	0.8～2.0	2.1 ↑
806	フェリチン	ng/mL	M: 9.0～275	
			F: 4.0～87.0	
50	BNP	pg/mL	18.4 以下	1000 ↑
811	PSA	ng/mL	4 以下	
813	F-PSA	%	27 以上	
814	HBs 抗原		0.05 未満	
891	HCV 抗体		1.0 未満	

血液学項目

項目コード	項目名	単位	基準値	緊急連絡 (FAX)
251	WBC	/ μ L	3300～8600	3000 ↓ 20000 ↑
252	RBC	万 / μ L	M: 435～555	200 万 ↓ 650 万 ↑
			F: 386～492	
253	Hb	g/dL	M: 13.7～16.8	6.9 ↓ 20 ↑
			F: 11.6～14.8	
258	PLT	万 / μ L	15.8～34.8	5 万 ↓
209	PT-INR		INR 0.85～1.15	INR 4.5 ↑
210	FIB	mg/dL	180～500	150 ↓
211	APTT	秒	27.6～34.3	60 ↑
212	FDP	μ g/mL	5.00 未満	30 ↑
51	D ダイマー	μ g/mL	1.00 未満	30 ↑